

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 石井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	131人	国語B	131人
② 算数A	131人	算数B	131人
③ 理科	134人		

5 留意事項

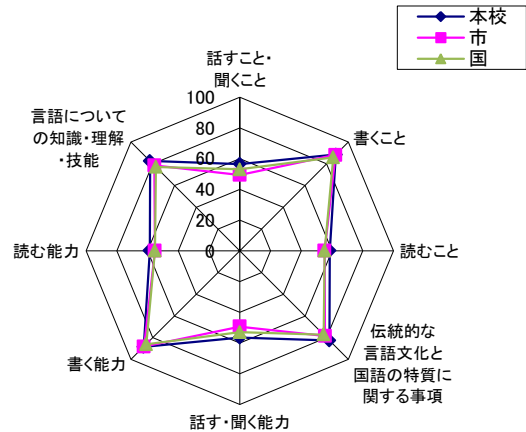
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立石井小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

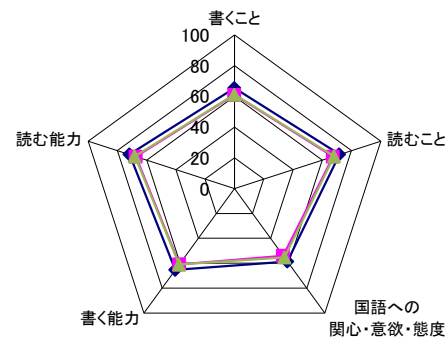
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	56.5	49.3	53.0
	書くこと	88.5	88.2	86.0
	読むこと	58.6	55.2	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.6	78.5	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	56.5	49.3	53.0
	書く能力	88.5	88.2	86.0
	読む能力	58.6	55.2	55.2
	言語についての知識・理解・技能	82.6	78.5	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	65.3	60.9	61.1
	読むこと	71.8	67.4	68.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	58.6	54.0	55.4
	話す・聞く能力			
	書く能力	65.3	60.9	61.1
	読む能力	71.8	67.4	68.1
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答の割合が多く、国語の大切さと有効性を自覚し、学ぶ意義を理解している児童が多いことがわかる。
- 「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」に対する肯定的な回答の割合はあまり高くなく、話し方のスキルや話す内容の構成の仕方など確認する必要がある。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

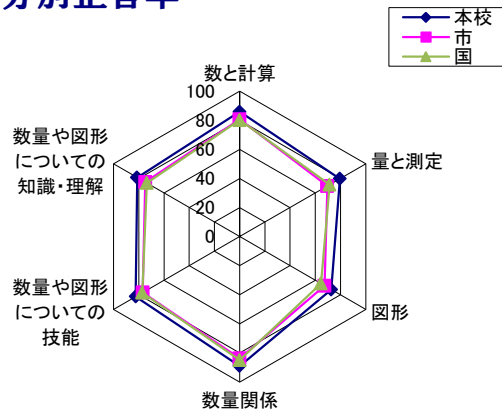
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●話し合いに提案された内容の適切な聞き方を選択する設問では、聞き方の工夫についての理解に不十分さが見られる。	・ことばの時間との連携を図り、聞き方や話し方のスキルを身に付けさせるようにする。
書くこと	○説明文の書き方の工夫として適切なものを選択する設問では、具体的な事例を挙げて文章を書くことよいことをよく理解している。 ●目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事に書く問題に対する正答率が低い。 ●文章と図を関連付けて、自分の考えを書く設問では、無回答の児童が6.1%いた。	・作文指導の中で、より良い表現を常に意識させ見直す推敲の学習を効果的に行う。 ・意見文や説明文から作者の意図を読み取り、自分の意見として表現しなおす活動を意図的に行う。 ・他教科のまとめを書く際などにも、目的や意図をはっきりさせたうえで調べた内容を整理しながら書くことを意識させて行うようにさせる。
読むこと	○物語の登場人物を把握する設問において、登場人物の相互関係を正しくとらえながら読み取ることができる。 ○目的に応じ、中心となる語や文を捉えることができる。 ●新聞のコラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く設問では、表現の工夫を捉えられた児童が少なかった。	・詩や説明文などを読むときに、自分の考えと相手の考えを比較し、共通点や相違点をとらえる学習を取り入れる。 ・読書活動を一層推進するとともに読書を楽しめる環境の整備に努める。また、読み聞かせやブックトークなどの時間を確保し、いろいろな分野の作品に触れる機会をもつようにさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○学習した漢字を正しく書いたり読んだりすることができる。 ●文の中における主語を捉える設問において、不十分さが見られる。	・既習の漢字を日常的に使えるよう今後とも働きかけを行うようにする。 ・主語と述語や接続詞などを意識して文章を読ませたり、書いたりする活動を意識的に取り入れる。

宇都宮市立石井小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

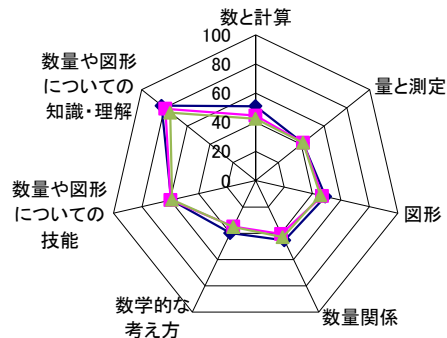
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	85.8	80.7	80.1
	量と測定	79.6	69.6	71.3
	図形	72.7	67.4	64.5
	数量関係	88.9	83.7	84.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	82.4	76.8	77.2
	数量や図形についての知識・理解	81.3	74.8	73.6



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	51.1	44.6	42.4
	量と測定	41.5	41.8	41.7
	図形	49.1	46.8	45.6
	数量関係	45.5	40.6	43.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	39.9	34.9	35.3
	数量や図形についての技能	59.5	59.8	58.7
	数量や図形についての知識・理解	82.4	79.1	74.9



★算数に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「算数の勉強は大切だと思いますか」「算数の授業で学習したことが、将来社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童が多く、算数の学習への意欲につながっていると考えられる。

○「新しい問題にであつたとき、それを解いてみたいと思いますか」の質問に対する肯定的な回答の割合が高く、既習事項を生かし、多面的な見方で解決を図る意欲的な態度が見られる。

★指導の工夫と改善

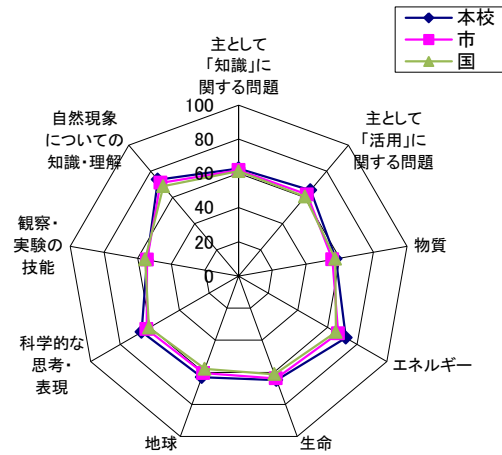
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○整数・小数・分数の四則計算について、正しく理解し答えを導き出すことができる。	・四則計算については、家庭学習と連携して繰り返し取り組みませ、確実な定着を図る。
量と測定	○180°よりも大きい角のおよその大きさを、2直角、3直角を基に捉えることができる。 ●正三角形の性質を基に、示された周の長さから辺の長さが等しくなることを求める問題の正答率が低い。 ●概数を用いた見積りの結果とそれに基づく判断を理解し、理由を記述する問題の正答率が低い。	・いろいろな図形の角、辺などの性質を再確認する。図形の領域の学習の際には、繰り返し復習し理解を深めるようにする。 ・概数が扱われる際には、常に復習を心がけ、丁寧に扱うようにする。位取りや四捨五入、切り捨てや切り上げなどの語彙の確認を行う。
図形	○平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを理解している。 ●示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見出し、その図形の性質を記述できない児童が多い。 ●長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述できる児童が少ない。	・それぞれの図形の定義と性質を理解させ、その性質を生かした作図を行わせる学習を通して実感を伴った理解を図る。 ・作図の仕方を言葉で順序良く表現するなどの活動を取り入れ、理解が深まるようにする。
数量関係	○グラフに示されている事柄を読み取ることができる。 ○式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することができる。 ●示された情報から基準量を求める場面ととらえ、比較量と割合から基準量を求める問題の正答率が低い。	・日常の事象を算数の内容と関連付け、表やグラフに整理したり、図に表したりしながら、筋道立てて考え説明する学習の機会を多く設ける。

宇都宮市立石井小学校 第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	62.9	61.9	61.3
	主として「活用」に関する問題	65.5	62.2	60.5
区分等	物質	57.8	55.7	57.4
	エネルギー	72.4	67.2	65.6
	生命	64.8	63.8	61.2
	地球	63.1	60.5	57.8
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	65.5	62.2	60.5
	観察・実験の技能	54.5	54.4	55.5
	自然現象についての知識・理解	73.5	71.1	68.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「理科の勉強は好きですか」「理科の授業の内容はよく分かりますか」「観察や実験を行うことは好きですか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童が多く、理科の学習への意欲につながっていると考えられる。

●「理科の授業で自分の考えを周りの人に説明したり発表したりしていますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童が少なく、結果から考察することに課題がある。実験や観察だけで終わらないように意識付けを図る必要がある。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質	○水蒸気は水が気体になったものであることを理解している。 ●水の温まり方を考察するために、実験結果を基に自分の考えを改善できる児童が少ない。 ●析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述することに課題がある。	・実験の際、予想・結果・考察・まとめを明確に区別をしてとらえさせるようにし、自分の言葉で考察をまとめる時間を確保し、理解が深まるようにさせる。
エネルギー	○振り子時計の調整の仕方を調べるための実験について、条件を制御しながら構想することができる。 ○電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善できる。	・表やグラフを利用して結果を整理し、考察する活動を繰り返し、理解をさらに深めていくようにする。
生命	○メダカの雌雄を見分ける方法を理解している。 ○生物の成長に必要な養分のとり方について、調べた結果を視点をもって考察して分析することができる。 ●顕微鏡の適切な操作方法を身に付けている児童が少ない。	・顕微鏡の部品の名称や使い方を復習するとともに、操作の仕方を言葉で説明させたり、一人ずつ操作をする機会を増やしたりして、操作方法を身に付けさせる。
地球	○打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察して分析できる。 ●方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析することに課題がある。	・方位磁針は、N極が指し示す方向が北になることを確認し、実際にN極に「北」を合わせる活動を繰り返し行って技能を身に付けさせる。また、自分を中心として4方位がどの方向になるのか確認する。

宇都宮市立石井小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に対し肯定的な回答の割合が高い。規則正しい生活習慣が身に付いている児童が比較的多く、また、子供たちの生活を良くしようという保護者の意識も高いと言える。

○家の人と学校のことについて話すことや、家の人が授業参観や運動会など学校行事に来るかを問う質問にも、肯定的な回答が多く、家の人と学校についてよく話し、保護者も学校への関心が高いと言える。

○「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあるか」の質問では、肯定的割合が栃木県や全国の割合を上回った。多くの児童が、学校でそのような体験をして満足感や充実感を感じていると考えられる。

●「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」「自分に、よいところがあると思いますか」の肯定的割合が低く、自己肯定感を高める支援が必要である。

●家で復習を行っているかを問う質問では、栃木県や全国の肯定的割合を上回った。しかし、家庭学習は個人差が大きく、今後一定時間取り組む習慣化を図る必要がある。

●「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」の質問では、肯定的な回答の割合が栃木県や全国の割合を下回った。目標を持って最後までやり遂げる意識や経験が少ないことが考えられる。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意ですか」の質問では、肯定的割合は低い。表現力育成のため、グループ学習など学び合いの場の充実を図っていく。

●「将来の夢や目標を持っていますか」「新聞やテレビのニュースを見ているか」の質問に対し肯定的回答があまり多くない。将来や社会への関心が低いことから、自分は何をしていくべきなのか、どんな社会を目指すのかなど、様々な機会を通して目標をもたせ取り組ませる必要がある。